

FACE

54 前田 基行氏(61)

あおもりエコノミー

アイアシスト合同会社
(おいらせ)代表社員

▲まえだ・もとゆき 1960年、北海道生まれ、下田町(現おいらせ町)育ち。中大卒。82年、県庁に入り、2016年に県消防保安課長。県議会事務局総務課長、同次長などを歴任し、20年退職。同年4月にアイアシスト合同会社設立▼



航空人材の橋渡し役に

県職員を退職後、昨年4月に「アイアシスト合同会社」を設立。「航空業界で働きたいシニアのための人材紹介」という、あまり聞き慣れない分野の職業紹介業に乗り出した。航空分野の人材不足とミスマッチを解消しようと、新たな切り口で挑んでいる。

アイアシストは、退職した求職側(例えば操縦士と求人側(例えば航空会社)との間で雇用が成立すれば、アイアシストは年間賃

金の30%を求人側から報酬として得る仕組みだ。航空業界は操縦士も整備士も高度な技術と資格、熟練度を求められるため、「自分で人材を育成するのが常識。そのため、外部から人材が流れ込んでくることは少なく、突然の欠員や事業拡大に対応するのが難しい」と指摘する。

起業のきっかけは県庁勤務時代の1995年、県防災ヘリ「しらかみ」導入に携わったこと。県消防保安課の一員として運航ルールの土台を作った。「ヘリ導入は全国でも珍しい時代。米国の会社からの買い付けはもちろん、運航体制を築くのが初めてで、何もかも手探り」だった。

県はその後2009年と12年に順次ドクターヘリを導入した。しらかみと合わせて3機体制となり、16年に消防保安課長に就任。本県の空と災害救助、救急医療を支える部署に戻った。県内でもヘリの認知度は上がり、時代の変化に伴い、欠かせない存在になってきた。自身が貫いた思いは「安全な運航」。他県との応援協定も結ばれ、ヘリの役割が増す中、確実な運航には「安定した人材の確保と活用が必要」との思い



を強くした。17年3月、長野県防災ヘリが同県内で墜落。操縦士、整備士、消防隊員合わせて9人が死亡した。他県の事故だったが、「ショックだったと言いつつ、優秀で貴重な人材を今まで以上に大事にしたい」と誓ったという。